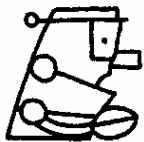


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

もう腸はどこにあるの、どう役に立っているの



人間のもう腸は、おなかの右下部分の、大腸の入り口
近くにあり、消化の役には立っていないのさ。

草食動物には役に立つが、人間やイヌには役に立たない

食べ物は、口 食道 胃 小腸 大腸 こう門の順で体内を動いて、養分を
吸収^{きゅうしゅう}され、残ったものが、うんちとして出てきます。もう腸は、小腸と大腸のさ
かいめ近くにある、行き止まりのふくろで、先に虫すいとよばれる部分がついてい
ます。

ウシ、イヌなどお乳^{ちち}で子を育てるほ^{にゅうどうぶつ}乳動物のなかまは、みんな、もう腸をもっ
ています。ウシやウサギのような草食動物にとっては、もう腸は大切な役目をする
ものです。もう腸の中には、植物を分解し、消化してくれるバクテリアがすんでい
て、食べた消化しにくい植物を、時間をかけて消化してくれるからです。

イヌや人間のもう腸は、小さくて、大腸の一部としてしか役に立っていません。
人間は、繊維^{せんい}のやわらかい野菜を料理して、きざんだり、熱を加えたりして食べて
いるので、もう腸がなくても消化ができるようになりました。イヌなどの肉食動物
は、植物をあまり食べないから、もう腸はほと
んど必要ないのです。

もう腸えんは、じつは、虫すいえんのこと

人間が、もう腸を手術して取るというのは、
もう腸ではなく、その先についている虫すいを
取るのです。虫すいが、はれあがっていたくな
ったのを、もう腸えんといっているのです。

虫すいは、太さはえんぴつぐらい、長さは5
～7cm ぐらいのもので、もう腸の下にぶら下が
っています。

